

MIL

MEDICAL INFORMATION LEAFLET

Vol.8
AUTUMN 2012

大人の為の予防接種と
子宮頸がん

意外と知らない!?

発行

大阪医科大学 健康科学クリニック

〒569-1123 大阪府高槻市芥川町1-1-1 JR高槻駅NKビル
TEL.072-684-6277 FAX.072-684-6278
E-mail omchsc@art.osaka-med.ac.jp
http://www.omchsc.jp
アクセス/JR高槻駅より直結

■MIL(ミル)

Medical Information Leaflet(医療情報紙)の略。心身、共に診るという意味も込めています。

大人のための予防接種 受けていますか？

えっ？予防接種って
子供が受けるものでは？

ワクチンってどんな種類が
あるんですか？

今は大人こそ予防が大切 年齢、性別、環境ごとに チェックしたい

特に大人が重症化しやすい病気があることはご存じですか？大人になると過去に受けた麻疹(はしか)や風疹、日本脳炎などの予防接種の効果も弱まります。大人が受ける予防接種は1～2回で済むのが大半です。自分と家族を守る大人の予防接種を知っておきましょう。

大人の為の予防接種 ワクチンには2種類あります

生ワクチン

●は定期接種 ○は任意接種

- 風疹 ●麻疹(はしか)
- おたふく風邪(流行性耳下腺炎)
- 水痘(みずぼうそう)

不活性化ワクチン

●は定期接種 ○は任意接種

- 日本脳炎 ●ポリオ
- B型肝炎 ○インフルエンザ
- 肺炎球菌(23価多糖体)(7価結合型)

生ワクチンと不活化ワクチンの それぞれの特徴と効能の違い

どちらがうの？



生ワクチン

生きたウイルスや細菌を弱毒化したものを使用します。その為接種後に軽い症状が出る事も。約1ヶ月で十分な免疫がつき、一回の予防接種で効果が長く持続します。

不活化ワクチン

生きたウイルスではない為、副反応は少ないです。但し、必要な免疫を得るために、一定の間隔で2、3回の接種が必要。免疫の持続期間は生ワクチンよりも短くなります。



もう一度知っておきたい!! 大人の予防接種の特徴

10月～11月の接種がBEST!

インフルエンザ

A型?
B型?

【主な症状】

39℃以上の発熱、関節痛、筋肉痛、頭痛、咳・喉の痛み、鼻汁等。合併症は中耳炎、副鼻腔炎、インフルエンザ肺炎、気管支炎等。重症化もしやすく、日本では年間約600人が死亡しています。



ポイント

65歳以上、
子供がいる家庭、
慢性疾患を持っている人

12月
後半から
流行

感染後、抗生物質が効かない。子供の感染も多く、流行は12月後半から。その為予防は10月～11月のワクチン接種が最適。遅くとも12月上旬までの接種を!

※平成24年秋冬のインフルエンザワクチンは1本のワクチンにA型2種、B型1種の合計3種類の抗体が含まれています。

おたふく風邪(流行性耳下腺炎)



【主な症状】

耳や顎の下などにある耳下腺辺りの腫れ・痛み、38度程度の発熱等。合併症は男性は睾丸炎、女性は卵巣炎等。

ポイント

おたふく風邪にかかった事の無い人

大人の感染は症状が重く治りにくい。男性は生殖機能の不能、女性なら子供が産めなくなることも。

風疹

【主な症状】

発疹(桃紅色)、発熱、リンパ節の腫れ等。合併症は脳炎、血小板減少性紫斑病等
※2012年兵庫県にて本州最多感染者を確認。
関西関東圏を中心に本土で流行中。

ポイント

成人男性や妊婦の人

大人は長期化しやすく治療法もない。また妊娠初期の感染は胎児の25～90%に心奇形等の影響を及ぼす。(※先天性風疹症候群と呼ばれます)

麻疹(はしか)

【主な症状】

38度以上の高熱、発疹、咳、目やに等。合併症は亜急性硬化性全脳炎、ウィルス脳炎、中耳炎等。

ポイント

妊婦・20代の人

伝染力が非常に強く一気に流行しやすい。妊婦が感染すると流産や早産にも。ワクチン未接種の人は積極的に接種を!
※血中の麻疹抗体価の測定で、免疫の有無の調査も可能



50代～60代の方注目!

肺炎球菌感染症

【主な症状】

ふるえや悪寒、高熱、咳、痰、胸痛や呼吸困難等。合併症は肺炎、髄膜炎、菌血症等。感染すると死亡率・障害率も高い。肺炎は死因の4番目、年間12万人が死亡。

ポイント

高齢者・免疫の低下している人

65歳以上の肺炎の原因の第一位。アメリカでは肺炎球菌感染症の予防接種は高齢者が受けるべきワクチンの一つに。
※一回のワクチン接種で5年は有効。

アジア旅行をする人に!

B型肝炎

【主な症状】

多くは無症状。その為感染者自身に自覚症状が無く、感染が広がりやすい。

【合併症】

感染者の約20～30%が急性肝炎を発症し、約10%が持続感染者となり、その15%が慢性肝疾患(慢性肝炎、肝硬変、肝癌)に。

【感染ルート】

感染者の血液や体液を介して感染。アジア圏は感染者が多い。特に中国は世界で一番感染率が高く、10人に1人は感染している。

ポイント

アジア圏に行く人、
生まれが1985年以前の女性の人の

母子感染予防対策が行われる1985年以前に生まれた方は母子感染を防ぐ検査を!

日本脳炎

【主な症状】

発熱、頭痛、下痢、軽い腹痛から意識障害・精神障害・後遺症等に。日本脳炎ウィルスを持つ蚊に刺され10万人に数人が感染。治療薬はなく完治が5割～6割の悪性の病気。特に33歳から37歳の方の約60%が抗体を持っていない為注意が必要。

水ぼうそう(水痘)

【主な症状】

全身に直径3～5mm程度の紅い発疹から水疱(水ぶくれ)、膿疱(水ぶくれに膿がたまる)、痂皮(かさぶた)に。合併症は間質性肺炎等。妊婦が妊娠初期に感染すると2%の胎児に、低体重出生・四肢の形成不全・脳炎・小頭症・白内障等の症状が現れる。

ポイント

水ぼうそうにかかった事の無い人
大人は重症化しやすい。

子宮頸(けい)がん特集は中面へ ➡

今回、お話を伺ったのは



大阪医科大学 健康科学クリニック
藤原 祥子医師

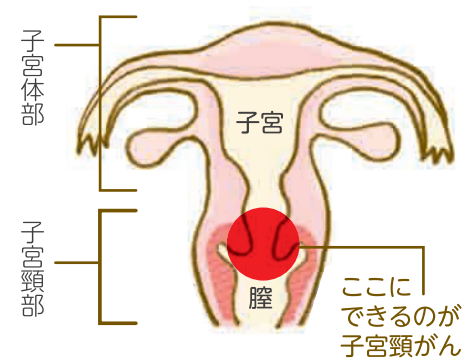
抗生物質が効かないウィルス性の病気、重症化した事例が多くあります。それを看病する親御さんも治療する医師もつらいものです。特にお子さんのいる家庭の方には「家族の笑顔を守るため」の予防接種をお勧めしています。

心とカラダに効くはなし

子宮頸がん

CMなどで目にする 子宮頸がんとは？

子宮頸がんとは子宮の入り口部分に出来るがんをいいます。進行すると子宮やまわりの臓器の摘出だけでなく、妊娠や出産の可能性を失ったり、命に関わる事もあります。今20代～30代の発生が急速に増えている事が問題になっています。定期的に健診を受ける事でガンになる前に発見し、子宮を失う事なく治療できる病気なのです。



子宮頸(けい)がんの現状を知って、自分の身体を守ろう！

20代～30代の女性特有のがんの中で 発症率が1位

若い人に急増している子宮頸がん。20～39歳までの女性特有のがん発生率を見ると1位：子宮頸がん、2位：乳がん、3位：卵巣がん※となっています。性交渉の経験のある人なら誰もがかかる可能性のある病気です。だからこそ20歳を超えたときが検診の適齢期。まだ検診を受けた事のない娘さんへのお母さんからの勧めも大切なのです。

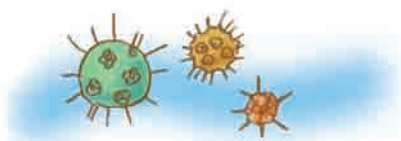
※上皮内がんを含む(国立がんセンターがん対策情報センター、人口動態統計より)

日本でも1日に10人が 子宮頸がんによって亡くなっています

いま全世界では約27万人、日本では1万5千人(上皮内がん含む)の人が子宮頸がんと診断されています。女性としても主婦としても母としても輝ける時期の社会的損失を防ぐために、子宮頸がんワクチンが注目されています。



原因はウイルス！ だから誰にでもなる可能性があります

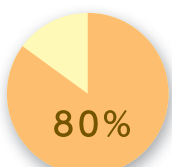


ほぼ100%が
ヒトパピローマ
ウイルス(HPV)が
原因!!

子宮頸がんの原因は、ほぼ100%がヒトパピローマウイルス(HPV)です。ただし、感染した場合も初期には全く自覚症状が無いいため、自分で気付けないのも特徴の1つです。

また不正出血やおりものの増加に気が付いた際には、すでにがんが進行しているケースが少なくありません。今では世界100か国以上で予防ワクチンが使われています。

女性の80%が一生涯に一度感染



HPV自体は、性交渉のある女性にとっては一般的なウイルスです。一度感染しても、90%が自然に排除されます。ただし、感染予防の免疫は得られないため、何度でも繰り返し感染します。何らかの炎症から排出されなかったウイルスの感染が長期化し、前がん病変(※がんになる手前)を経て、がん化するとされています。



HPVは100種類以上！子宮頸がんの原因である発がん性HPVは、その中の15種類。その中の発症の7割を占めるHPV16型とHPV18型と呼ばれる2種類に対して子宮頸がんワクチンはほぼ100%の効果を発揮しています。

大丈夫!! ほぼ100%防ぐことができます

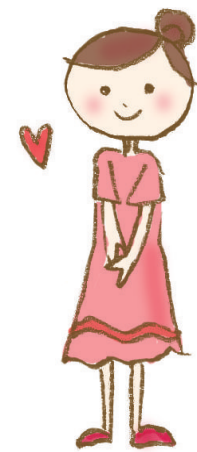
予防対策

20歳になったら年に 一度の定期検診を

実際の検診のながれは、

- ①問診
- ②検診(内診)
- ③細胞診(PAPテスト…子宮頸部の粘膜を軽くこすり取る事)の3ステップで、要する時間もわずか5分程度です。

後日HPVに関係する異常な細胞が無いかの検査結果が判ります。



年に1回!

ワクチンで防げる子宮頸がん。 ワクチンの効果はおおよそ15年!

子宮頸がんの原因の約7割を占めている発がん性HPVの16型と18型。この2種のがん発生を防ぐ事の出来るワクチンを打つことで(半年の間に3回)、おおよそ15年もの間発がんを防ぐと言われています。



半年の間に3回!!
ほぼ100%防げます。

今回、お話を伺ったのは



大阪医科大学 健康科学クリニック
後山 尚久医師

唯一予防できる子宮頸がん。その兆候を早期に見つける事が出来れば、妊娠も可能です。何としても救える女性の発がんを防ぎたい。そして子宮頸がんやワクチンの疑問についてもお答えできる、子宮頸がん検診をご受診下さい。

健康科学クリニック

Information

健康科学クリニックでは、さまざまな人間ドックと各種検診を行っています。

人間ドックコース (価格はすべて税込)

- **基本コース** ￥42,000
身体測定・尿検査・便潜血検査・血液検査・胸部X線・呼吸機能検査・胃部検査(X線・胃カメラ)・心電図・腹部エコー・診察
- **女性コース** ￥54,600
(基本コース+乳がん+子宮がん検診)
※下記の乳がん、子宮がん検診をご参照ください。
- **肺コース** ￥54,600
(基本コース+肺がん検診)
※下記の肺がん検診をご参照ください。
- **脳コース** ￥73,500
(基本コース+MRA+MRI)
- **脳ドック** ￥52,500
身体測定・尿検査・血液検査・心電図・頸動脈超音波・血圧脈波・MR検査(MRI+MRA)・診察(頸部・心血管の疾患の有無・神経学的診察を含む)
- **脳ドックプレミアム** ￥63,000
脳ドック+認知症診断のための特殊MR検査
※各コースともに胃カメラを選択された場合、別途4,200円かかります。

がん検診コース (価格はすべて税込)

- **乳がん** ￥8,400
(視触診・マンモグラフィ・乳腺エコー)
- **子宮がん** ￥8,400
(細胞診検査(子宮頸部)・経膈エコー・内診)
- **乳がん+子宮がん** ￥8,400
(視触診・マンモグラフィor乳腺エコー・細胞診検査(子宮頸部)・内診)
- **肺がん** ￥16,800
(胸部マルチスライスCT検査・喀痰細胞診検査・診察)
※単独でのお申し込みが可能です。

オプション(追加)検査 (価格はすべて税込)

検査項目	料 金	チェックされる主な疾患
乳腺エコー	￥4,200	乳がん、乳腺症など
マンモグラフィ	￥4,200	乳がん
子宮細胞診(頸部)	￥3,150	子宮頸がん
子宮細胞診(体部)	￥5,250	子宮体がん
経膈エコー	￥4,200	卵巣のう腫、子宮内膜ポリープなど
胸部CT(マルチスライスCT)	￥12,600	肺がん、肺気腫など
腹部CT(マルチスライスCT)	￥12,600	肝臓がん、胆道がん、肝硬変、胆石、胆嚢炎、大動脈瘤など
MRI検査(頭部MRI+頸部MRI)	￥31,500	脳梗塞、未破裂動脈瘤、脳腫瘍など
骨密度(X線)	￥3,150	骨粗しょう症など
内臓脂肪測定	￥3,150	内臓脂肪型肥満など
腫瘍マーカー(AFP)	￥2,625	肝がん、肝硬変
腫瘍マーカー(CA19-9)	￥3,150	胃がん、結腸がん、直腸がん、肝がん、膵がん、胆のうがん、胆道がん、肺がん
喀痰細胞診	￥3,675	肺がん
動脈硬化セット(頸動脈エコー+ABI)	￥7,350	頸動脈血管閉塞、頸動脈血管狭窄、動脈硬化など
頸動脈エコー	￥4,200	頸動脈血管閉塞、頸動脈血管狭窄
ABI(血圧脈波)	￥3,150	動脈硬化、閉塞性動脈硬化症など
胃がん危険度判定(ABC検診)(便中ピロリ菌+血清ペプシノゲン)	￥6,825	胃がん発生の危険度
便中ピロリ菌	￥3,150	糞便中のピロリ菌(胃がん発がん因子)
血清ペプシノゲン	￥3,675	萎縮性胃炎(胃癌になりやすさの程度)

※オプション検査のみの取扱いはありません。(必ず人間ドック各種コースに合わせてお申し込み下さい)
※詳しくはお問い合わせください。

※一般外来では女性内科/漢方内科/婦人科/消化器内科/循環器内科/総合内科を設けておりますが、すべて、医療機関からの紹介が必要となりますのでご了承ください。

※当院の健診で精査などの判定された方内、当院でできる内容のものは診療いたしますので当クリニックにご相談ください。

お申し込み・お問い合わせ・資料請求は

☎072-684-6277

P C <http://www.omchsc.jp>

モバイル <http://www.omchsc.jp/mobile/>

ホームページ
もしくはモバイル
からもお申し込みが
可能になりました



お知らせ

12月1日(土)午後2時から大阪医科大学看護学部講堂で健康科学クリニック主催の第6回市民健康フォーラムを開催しました。

当日は、約330名の市民の方にご参加いただき、会場は満席の大盛況でした。



第一部講演は健康増進講話として、藤原祥子医師による『サプリメント…これ効くの?これ大丈夫?』というテーマで講演を行いました。サプリメントと医薬品の違いやサプリメントの副作用などをわかりやすく噛み砕いた講演で、参加者は熱心に聴講されておりました。

第二部は「もっとよく知ろう「がん」のこと」をテーマに、後山尚久医師による『現在のがんの動向、がん検診の常識・非常識』と、向坂直哉医師による『がんの予防によいこと、いろいろ』の二本立てでした。とてもわかりやすい内容となっており、参加者は第一部同様熱心に聴いていました。

また、講演の合間には「音楽療法による脳の活性化」として混声合唱を行い、こちらでも好評いただけました。

大阪医科大学健康科学クリニックでは、これからも定期的に健康フォーラムを開催し、市民の皆様へさまざまな医療や健康に関する情報を提供してまいります。どうぞご期待ください。



2013年の春には第7回市民健康フォーラムの開催を予定しております。また、詳細などきまり次第ホームページにてご案内させていただきます。